福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI REPOSITORY

初版本の魅力：近代文学館『名著復刻全集』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 膽吹, 覚 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/10594

ようこそ、本の世界へ（2）

初版本の魅力 ―近代文学館『名著復刻全集』―

語学センター 准教授　膽吹（いぶき）　覚（さとる）

平成21年（2009）の夏、ぶんか社は夏目漱石『坊っちゃん』、太宰治『人間失格』、堀辰雄『風立ちぬ』といった近代文学の〈名作シリーズ〉を文庫本で刊行しました。その表紙を飾ったのは、当時人気絶頂のアイドル・グループAKB48のメンバーの写真でした。それは単行本の時にジャケットに使用されたデザインでなければ、作家の肖像でもなかったのです。ぶんか社はジャケット以外でも、本文の活字を少し大きくし、行間もゆったりとしたレイアウトに変更しました。こうした戦略が功を奏したのか、ぶんか社の〈名作シリーズ〉は10代の若者からの多くの支持を得て、重版がかかったそうです。

この時にぶんか社がしたことは、本の内容ではなく、その〈装幀（そうてい）〉に新たな趣向を盛り込むというものでした。装幀とは本の大きさ、ジャケット、表紙、見返し、扉などの外側のデザインのみならず、用紙の選定、活字の種類や大きさ、行間といった本文のデザインまでも含めた、書籍全体の設計を行うことです。現在では、これをブック・デザインという人もいます。

日本の書物の装幀が大きく変化したのは、明治時代に入ってからでした。それは和装本から洋装本へ、整版（せいはん）印刷から活版印刷へという変化でした。

こうした書物の西洋化を一早く取り入れ、それを反映させたのは近代の文学作品でした。夏目漱石『こころ』、芥川龍之介『羅生門』、与謝野晶子『みだれ髪』、谷崎潤一郎『春琴抄』。いずれも近代文学の〈名著〉であることは言うまでもありませんが、これらはまた日本装幀史の1ページを飾る〈書物〉でもあるのです。

昭和43年（1968年）、日本近代文学館はこうした近代文学の〈名著〉を初版本によって復刻し、『名著復刻全集　近代文学館』（以下『名著復刻全集』）として刊行しました。全4期（明治前期・同後期・大正期・昭和期）に分けて、計126点が出版されました。本稿では、紙面の都合でそのすべてを解説することはできませんので、その中から3点を選んで紹介します。

まずは夏目漱石『こころ』です。『こころ』の初版は、大正3年（1914）に岩波書店から出版されました。この『こころ』の装幀は漱石自らが考案しました。表紙は橙色（だいだい）で、中国周代の石鼓文（せっこぶん）の拓本を地紋とし、その中央上部に四周双辺の囲みの中に『康熙字典（こうきじてん）』に記載された「心」の意味が貼付されています。写真では見えませんが、表紙の背には平仮名で「こゝろ」とあります。すでに皆さんもお気づきでしょうが、この表紙のデザインは、現在刊行されている岩波書店版の漱石全集にも採用されています。

2つ目は与謝野晶子『みだれ髪』です。縦19センチ、横8センチの短冊型。歌集らしい判型です。『みだれ髪』は明治34年（1901）に新詩社から刊行されました。装幀は画家の藤島武二です。表紙には、白地にハート型の中に長い髪の女性の顔が描かれています。そのハートは矢に射抜かれており、その矢の先から3輪の花が零（こぼ）れ落ち、さらにハートの下端から滴（したた）り落ちる血のようなデザインで「みだれ髪」と書かれています。本文には1ページに3首、随所に挿入された栞（しおり）を思わせる縦長の挿絵も印象的です。「やは肌のあつき血汐にふれも見でさびしからずや道を説く君」「みだれ髪を京の島田にかへし朝ふしてゐませの君ゆりおこす」その内容にふさわしい装幀といえるでしょう。

3つ目は谷崎潤一郎『春琴抄』です。『春琴抄』は昭和8（1933）年に創元社から出版されました。写真ではわかりにくいのですが、朱色漆塗り表紙に、細筆の金字で「春琴抄」とあります。なお『春琴抄』には朱色漆塗りの他に黒色漆塗りの表紙もあります。また、その本文は余白の少ない罫線紙にやや太めの書体の活字が使われています。この『春琴抄』の装幀は谷崎が強い思いいれをもって考案したものですが、漆塗りの角々が剥（は）がれたり、背（せ）の部分に用いた布が薄いために強度に問題があったりして、英文学者の壽岳文章（じゅがくぶんしょう）などからは厳しく批判されました。しかし、私はこうした意匠を凝らした装幀にこそ、この作品に込められた谷崎の思いが感じられて好ましく思われるのです。

本稿で取り上げた『こころ』『みだれ髪』『春琴抄』の3作品は、現在では文庫本で読むこともできますし、電子書籍として読むこともできます。しかし、近代に刊行された文学書の中には、それを手にし、目にした者を惹きつけてやまない魅力があるのです。本は単に読むだけのものではなく、見て、触れて、読んで、楽しめるものなのです。『名著復刻全集』は限りなく初版本に近づけた復刻本であり、初版本そのものではありませんが、十分に期待に応えてくれる完成度です。

本学総合図書館所蔵の『名著復刻全集』は閉架書庫にあり、誰でも借り出して、読むことができます。みなさんも一度、初版本の魅力を感じてみてはいかがでしょうか。

※なお、医学図書館にも『名著復刻全集』が2F伊崎文庫にあります。